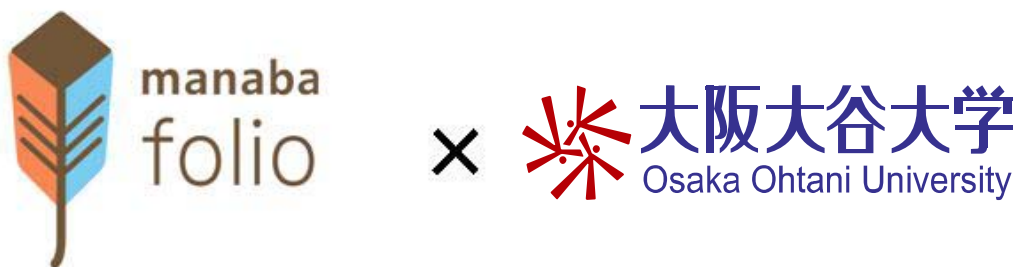


Press Release

大阪大谷大学に クラウド型教育機関向けポートフォリオシステム「manaバ フォリオ」を導入

株式会社朝日ネット(東証一部、本社:東京都中央区、代表取締役社長:山本公哉)は、大阪大谷大学にクラウド型教育機関向けポートフォリオシステム「manaバ フォリオ」を導入いたしました。

大阪大谷大学 教育福祉学部は平成21年度、幼児教育実践研究センターを設置しました。学際的立場から幼児を取り巻く諸課題に取り組み、南大阪地域を中心に広く関西の幼児教育を支え支援するセンター機能を目的としています。本センター事業の推進と現職保育者および本学学生・卒業生をつなぐネットワークを構築し、保育の質を高めるためのツールの一つとして、朝日ネットのポートフォリオシステム「manaバフォリオ」が採用されました。



* ポートフォリオとは？

ポートフォリオとは、個人の学習成果や記録、評価をファイルしたものです。学生がポートフォリオを見直すことで自身の学習を振り返ったり、教員・スタッフがポートフォリオを参照しながら学生を指導する教育方法が近年注目を集めています。

クラウド型教育機関向けポートフォリオシステム「manaba folio(manaバ フォリオ)」

manaba folio(manaバ フォリオ)は、学習の成果をポートフォリオに貯め、学生自身が振り返り、学生同士で評価しあうことを実現する全く新しいシステムです。

「manaba folio(manaバ フォリオ)」の詳細はこちらをご覧ください。

<http://manaba.jp/about-folio.html>

「manaba folio(マナバ フォリオ)」導入の背景と目的

大阪大谷大学 幼児教育実践研究センターの概要:

大阪大谷大学 幼児教育実践研究センターは、教育福祉学部付属の施設として、平成 21 年度に開設しました。大阪大谷大学は、昭和 41 年に旧大谷女子大学として開学し、昭和 45 年に幼児教育学科を設置、4 年制の保育士養成がまだ希少であった昭和 63 年に、他学に先駆けて保育士(旧保母)養成課程を設置、以後、幼稚園教諭と保育士の両方の免許・資格を有する専門性の高い保育者を養成するなど、40 年にわたり数多くの幼稚園教諭・保育士を世に送り出してきました。こうした長年の歴史と実績を活かし、幼児教育実践研究センターは、学際的立場から現代の子どもを取り巻く多様な環境や諸問題に取り組み社会に還元します。また、幼稚園や保育士の養成系大学に求められる幼児教育のセンター機能を果たすべく教育支援・子育て支援や発達相談を行い、幼稚園・保育所や家庭・地域社会の教育力を支え支援します。

幼児教育実践研究センター事業 5 つの柱:

「保育者研修」 「発達相談」 「子育て支援」 「研究」 「養成教育と実践現場の連携」

「manaba folio(マナバ フォリオ)」の具体的な取り組み:

大阪大谷大学 教育福祉学部 幼児教育実践研究センターでは、「manaba folio (マナバ フォリオ)」を導入し、大阪大谷大学の卒業生 (OG・OB) 及び在学生に対して常に情報発信できるネットワークを形成し、また、地域の保育者同士、あるいは、保育者と本学の幼児教育の専門教員等が双方向で情報交換できるコミュニティを構築します。

さらに、OG・OB 保育者に、リカレント教育の情報を提供するとともに、OG・OB 同士の情報交換や同じ保育職を目指す後輩学生へのアドバイスの場として活用します。在学生にとっては、保育職への採用試験や実習についての情報交換の場となり、地域の保育者や OG・OB 保育者のコミュニティに参加して現職保育者に出会うことで、なりたい保育者像をイメージしやすくなります。日頃は出会うことがない保育者のネットワークを強固にしていくことで、地域全体の保育の質の向上を目指します。

大阪大谷大学 概要

学校名： 大阪大谷大学

URL： <http://www.osaka-ohitani.ac.jp/>

設立： 1966年（昭和41年）

学長： 笠井 高芳

所在地： 大阪府富田林市錦織北3丁目11番地1号

学生数： 3,118人（2010年5月1日時点）

特色：



大阪大谷大学の母胎大谷学園は、明治42年、大阪の難波別院境内に設立された大谷裁縫女学校に端を発し、平成21年に創立百周年を迎えました。創立者左藤了秀は、真宗大谷派の僧で、日露戦争後の人心の荒廃に心を痛め、仏教界の刷新に情熱を傾けた人です。仏教を人々の心の糧として定着させるためには、学校教育を通して宗教心を育成すべきだと考え、一宗一派に拘らない自由な立場で宗教的情操教育を行おうと、本学園を創設しました。

校祖の理想を受け継いで、「大乘仏教の精神」を建学の精神の根幹に定めました。その立場は、平成18年に男女共学に移行し大学名を改称した後もかわることなく守られています。

「大乘仏教の精神」には、極めて広い意味内容が含まれていますが、本学では開学以来それを「報恩感謝」という言葉で理解しています。

釈尊によって提唱された仏教は、あらゆる「いのち」が、その個性のままに絶対の尊厳をもち、しかも互いに支え合いながら存在することを説く宗教です。すべての生きとし生けるものが、それぞれの個性を最大限に発揮し、最高の輝きを得られるよう、共に助けあい励ましあって成長していけるような社会の実現を目指しています。これこそが大乘仏教運動の目標であり、真宗の宗祖親鸞聖人の教えもこの精神に依拠するものと言えます。自己が無数の「いのち」に支えられていることを自覚し、その恩をたずね、感謝の心を捧げつつ生きていこう、というのが「報恩感謝」の心です。

「報恩感謝」の心を芽生えさせるためには、「いのち」を見る目を持つことが肝要でしょう。昨今の社会情勢を見ますと、「いのち」を見る目の欠如がさまざまな問題の根元をなしているように思われます。我々は普通、自己を中心にして他者の価値を判断しています。自分にとって役に立つか否かの判断基準に基づいて物の価値を定めています。これは「道具」を見る目です。道具を見る目で人を見てはいけません。人を見るときは、一つ一つの「いのち」の尊さに目を向けなければならないのです。

大阪大谷大学では、「大乘仏教の精神」に基づき、「いのち」を尊厳する目で互いを見つめ合い、感謝の心で接し合うことができるような人間関係を築くことによって、輝かしい個性の集う理想の学園を作り、社会に貢献していくことを目指しています。